

日本共産党市議会議員団、市に要望書を提出

10月30日(金)、日本共産党市議会議員団は、市に対して「新型インフルエンザのワクチン接種に関する要望書」を提出しました。野澤朗健康福祉部長が応対しました。

新型インフルエンザは、秋・冬の本格的な流行期に入り急激に感染者が拡大しています。本市においても、連日のように小中学校などにおいて学級閉鎖が相次いでいます。今後さらに爆発的な感染者拡大が予想されており、感染予防と重症化防止に向けた対策が求められています。

国の「インフルエンザワクチン接種の基本方針」では、接種費用については原則自己負担とし、市町村が国と県の財政支援のもと、必要に応じて低所得者の負担軽減措置を講ずるとしています。本市においても、生活保護世帯などに、市長の専決による予算措置が講じられました。

性とはいえ、大多数の人が免疫を持たない新型であり、感染の拡大を防ぎ重症化などによる健康被害を最小限に抑えることは、個人の責任にゆだねる問題ではなく、社会全体の要請として考えるべきです。

すでに妙高市においては、妊婦、1歳未満の小児の保護者など、1歳から小学校6年生までの幼児・児童に接種費用の半額を助成する取り組みが進められています。また、千葉県浦安市、静岡市、東京都港区など全国の自治体でもさまざまな手立てがとられています。

日本共産党市議会議員団では、次の2点について市に要望書を提出しました。

- ① 新型インフルエンザワクチンの優先接種対象者 (1) 妊婦 (2) 基礎疾患のある人 (3) 1〜6歳の幼児と小学校1〜3年生 (4) 1歳未満時などの保護者 (5) 小学校4〜6



申し入れを行う日本共産党市議会議員団

小山直嗣顕彰展開催

創立し、機関紙「白南風(しらはえ)」を小山直嗣のペンネームで編集発行。昭和23年「砂山の唄社」より、『雪あかり』を刊行しました。その後、詩作や歌詞、民話・伝説の採集活動を精力的に行いました。



春日中学校、国府小学校、高田工業高校、吉川中学校などの校歌の製作にもかかわったことでも知られています。平成3年に脳梗塞をわずらうまで意欲的な制作活動に励みましたが、平成9年上越市文化功労者として表彰を受けましたが、平成18年94歳で永眠しました。

詩作と民話・伝説の採集

10月31日から11月23日までの期間で「詩作と民話・伝説の採集」と題して小山直嗣顕彰展が開かれています。会場は上越市立図書館(高田)です。

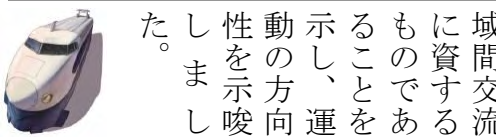
顕彰展開催に先立ち、31日午前9時半から高田文化協会役員やご遺族など関係者が集いオープニング式典が行われました。

日本共産党市議会議員団からは、上野公悦議員(文教経済常任委員)が出席しました。

小山直嗣は、1912年(明治45年)中頸城郡櫛池村梨窪(現清里区櫛池)に、農家の長男として生まれました。早稲田大学専門部政経科を中退後、帰郷し農業に従事、昭和9年に「雪人形社」を結成、小山虹洋のペンネームで詩作に励み編集発行。その後、日中戦争、太平洋戦争で軍事召集を経て後、新潟日報社に勤務。昭和21年に上越詩人連盟を



在来線を守り発展させることが大事



在来線を守るニ市連絡会・地域の会 合同学習・交流集会開かれる

11月1日午後1時半から、上越市春日謙信交流館で、在来線を守るための学習・交流集会が開かれました。「公共交通を良くする富山の会」の渡辺眞一氏が「検証『前政府・与党合意』と県境分離による鉄道の安全・利便性」と題して講演を行いました。

渡辺氏は、JRから経営分離した第三セクター鉄道の抱える諸問題について、全国各地を現場主義に基づいて数度にわたって視察した結果を分かりやすく説明しました。

また、経営分離はJRが採算をとるためのものであること、新幹線開業に伴ってJRが支払うのは貸付料(新幹線の線路使用料)のみであり、それ以外は一切支払うつもりはないことを指摘。県境分離で在来線の運賃はさらにアップし、第三セクターの経営、安全と事故対応についても問題が大きいと批判しました。

最後に、並行在来線は地域経済を支え暮らしを支えるシステムであり、地域間交流に資するものであることを示し、運動の方向性を示唆しました。

日本共産党上越市議員団ニュース

No. 207 2009年11月8日

連絡先	橋爪 法一	548-3628	(吉川区代石)
	樋口 良子	544-6802	(中門前3)
	上野 公悦	530-2203	(頸城区中柳町)
	平良木哲也	525-9096	(上中田)